

2015JACM Awards の募集

吉村 忍 JACM 会長 (東京大学)

日本計算力学連合 (JACM) は、計算力学分野における顕著な功績および業績をあげた研究者を表彰する 3 種類の JACM Awards の候補者を募集します。JACM 会員におかれましては、候補者を自薦他薦で奮ってご推薦下さい。

推薦者は、次の 5 項目を含む A4 用紙 1 ページの推薦書 (PDF フォーマット) の推薦書を期日までに提出してください。

推薦書に記載すべき項目

1. 推薦しようとしている Award の名称
2. 候補者の氏名、所属・住所、e-mail アドレス
(奨励賞候補者は生年月日も記載のこと)
3. 推薦者の氏名、所属・住所、e-mail アドレス
4. 主な受賞歴を含む経歴 (最大 10 行以内)
完全なリストである必要はありません。最近のものあるいは最も重要なポストを記載してください。
5. 候補者の最も主要な功績あるいは業績の簡潔な記述
(500 字以内)

特に、その Award の候補者として推薦する理由がわかるように記載してください。

今回募集する JACM 各賞は次の通りです。過去の受賞者は、下記 URL で一覧できます。

<http://www.sim.gsic.titech.ac.jp/jacm/Japanese/Award/index.html>

また、推薦状のフォーマット兼例文は、同じ URL にあります。推薦書は、2015 年 3 月 31 日 (火) までに e-mail にて、次のアドレスに送ってください。

送付先: yoshi@sys.t.u-tokyo.ac.jp

本 Award 受賞者には、2015 年 7 月 26 日～30 日に米国サンディエゴで開催されます USNCCM (<http://13.usnccm.org/>) の会期中に開催されます 2015 年 JACM 総会において表彰予定です。

JACM Awards

The JACM Computational Mechanics Award

日本計算力学賞 (3 名以内)

計算力学の広い分野での顕著な研究業績、ソフトウェア開発、計算技術開発に対して与えられる。

The JACM Young Investigator Award

日本計算力学奨励賞 (3 名以内)

計算力学分野で顕著な業績及び研究を行った 40 才以下 (表彰年以内に 41 才になってはならないこと) の研究者に与えられる。

The JACM Fellows Award

日本計算力学連合フェロー賞 (5 名以内)

計算力学分野で顕著な業績を上げ、JACM へのサポート、および IACM 関連国際学会に貢献した研究者に対して与えられる。

USNCCM13 のご案内

吉村 忍 JACM 会長 (東京大学)

13th US National Congress on Computational Mechanics (USNCCM13) が2015年7月26 (日)～30日 (金) に米国サンディエゴ (the Manchester Grand Hyatt) で開催されます。前回、第12回のUSNCCMは2013年に米国ローリー (ノースカロライナ州) で開催されています。

会議の詳細はWEBページ:

<http://13.usnccm.org/>

に掲載されております。以下に重要な締切日を列举致します。

2月28日 アブストラクト提出締切

5月15日 Early Registration 締切

状況により変更があるかもしれません。WEBページを適宜ご覧下さい。JACM総会ならびに2015 JACM Awards 授賞式をUSNCCM13期間中に開催致します。JACM会員の皆様におかれては本会議に奮ってご参加の程お願いいたします。

IISW2014 会議報告

河合浩志（諏訪東京理科大学）
塩谷隆二（東洋大学）
中林靖（東洋大学）
荻野正雄（名古屋大学）

2013年10月2日（木）－3日（金）に東京都文京区の東洋大学白山キャンパスにおいて国際会議The 5th International Industrial Supercomputing Workshop (IISW2014)が開催された。IISWはスーパーコンピュータ、HPCやクラウドコンピューティングなどの技術について産業界への浸透をはかる際に生じるさまざまな技術的、あるいは経営や政治的な問題を討議する場となっている。

IISWワークショップは今のところクローズドな会議であり、参加者や発表者は主に招待者のみとなっている。2、3日通して1セッションのみという比較的こじんまりした会議である。主な参加者はNCSA、ORNL、HLRS、CENICA、BSCなど世界各国のスパコンセンターに所属し、それぞれが所有・管理するスパコンの産業応用を担当している方々である。また、それぞれの年のワークショップ開催をホストするスパコンセンターや研究所は知り合いの産業界ヘビーユーザーやコンサルテーションサービスベンダーを招待し、現地におけるスパコン産業応用のより具体的な事例紹介を行ってもらっている。

本ワークショップはアメリカ、ヨーロッパおよびアジアを回る形で毎年1度、春あるいは秋ごろ、あるいはSCやISCなどのスパコン関連会議に連動するように開催されている。初回は韓国のデジューン(KiSTiスパコンセンター)、続いてドイツのシュツットガルト(HLRSスパコンセンター)、アメリカのイリノイ州シャンペーン(NCSAスパコンセンター)、そして昨年度オランダのアムステルダム(SURFsaraスパコンセンター)で開催された。今年度の東京で5回目になる。ホストは東洋大学計算力学研究センター(CCMR)およびオープンソースプロジェクトADVENTUREである。今回の参加メンバーとして、海外からアメリカのイリノイ州立大NCSA、同オハイオ州立大OSC、ドイツのシュツットガルト大HLRS、韓国KiSTi、オランダSURFsara、スペインBSC、スウェーデンKTH、イギリスNAG/HECToRなどのスパコンセンター関係者が参加した。一方、国内のスパコンセンターとして、理研AICS、JAMSTEC ESセンター、JAXA JEDIセンター、東大ITC、東工大GSICの5つのセンターより発表が行われ、また兵庫県・神戸市FOCUSからも参加があった。さらに、ユーザー事例としてトヨタ中研から、日本発のシミュレーションソフトウェア事例としてFrontFlow/red、FrontISTR、東大生研・革新センター、ADVENTUREClusterなどの事例報告が行われた。また、東工大、KiSTi、プロメテック、テクノスター、インサイト

からの展示・ポスター発表が行われた。

会議のディスカッションでは、スパコン産業応用に関して、さまざまな課題が指摘された。特に、いくつかのスパコンセンターは中小企業向け経済振興策の一環としてスパコン利用促進を進めているが、実際にはいろいろな問題があるようである。これらを筆者なりにまとめてみると、シミュレーションの高並列化、プレポストにおける大規模メッシュデータの扱い、外部スパコンセンターやクラウド環境の利用とセキュリティ、産官学間の共同研究（オープンな利用）から企業内での本格的な設計計算（クローズドな利用）への移行、そしてやはり一番難しいのは、そもそもの中小企業におけるCAEの浸透、のようである。

なお、来年度の次回はアメリカ（場所はまだ決まっていないが、ORNLが有力）で開催される予定である。また、比較的近いうちにこれまでのような招待者のみのクローズドな形態から一般の方でも参加できるようなよりオープンな形へ移行するプランがあることもアナウンスされている。

本ワークショップ開催に際し、JACM、JSCESおよびJHPCNの協賛を得た。また、JSTよりご支援を得ている。ここに感謝の意を示す。



写真1 IISW2014の様子

編集責任者

西脇 眞二（京都大学）

山田 崇恭（京都大学）